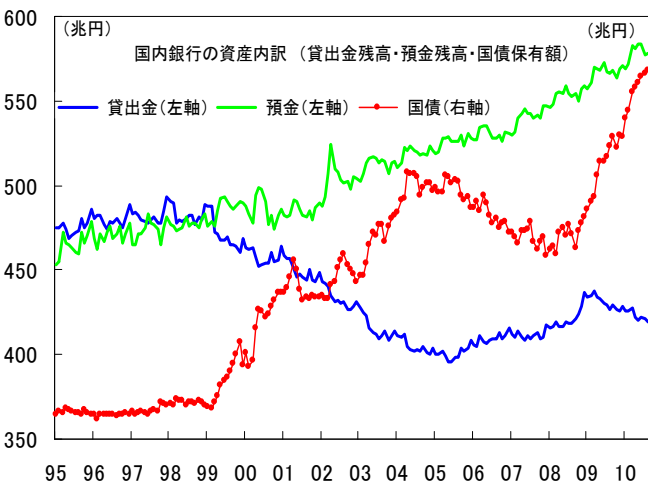


国内金融機関の長期国債需要は衰えず

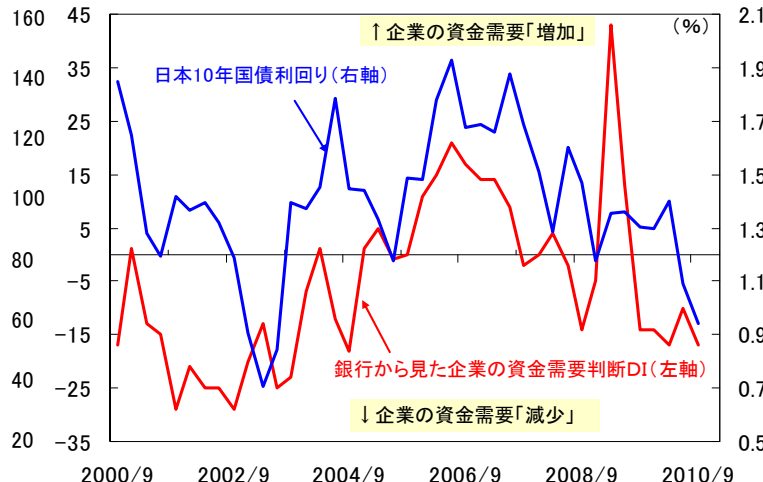
✓ 国内金融機関の債券需要は底堅く、長期金利の低位横ばい推移の一要因に。

● 金融緩和で大量に供給されたマネーを受け、国内の銀行は預金で増えた資金を需要の伸びない貸出から、国債にシフトしています(図表①②)。旺盛な国債需要は金利低下圧力の一つと言えます。

【図表①】



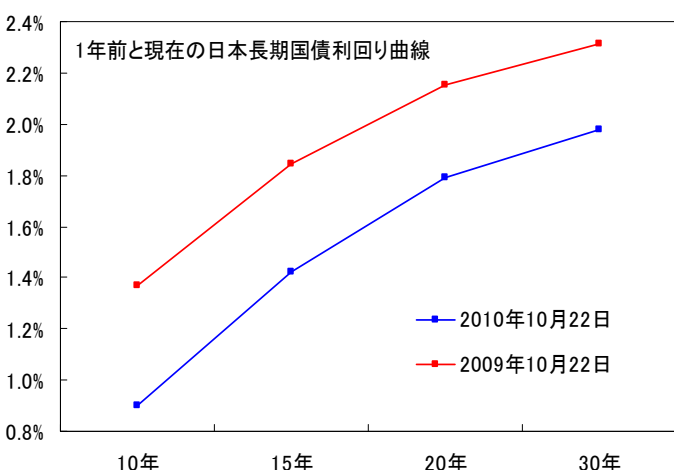
【図表②】



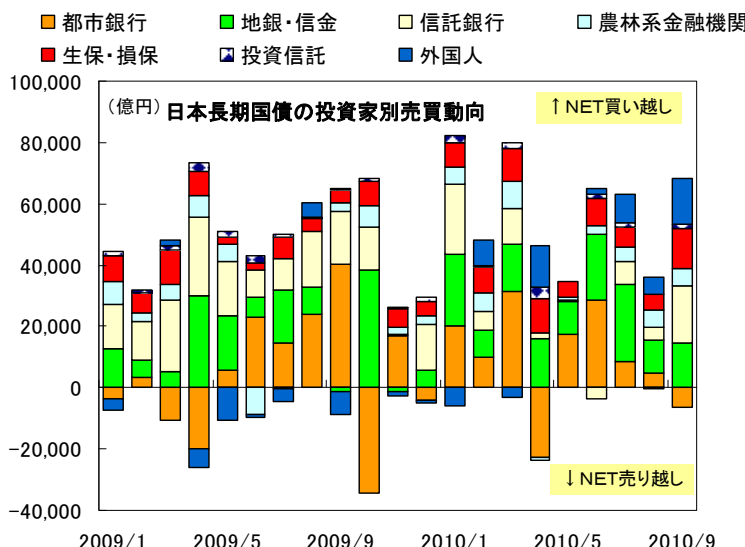
● 現在の長期金利の利回り曲線は、1年前と比べると大きく低下しているにも関わらず(図表③)、国内の主要金融機関の、旺盛な国債投資が継続しています。特に生・損保は9月に1兆2,900億円と過去最大規模の長期国債購入額を記録しました(図表④)。

● 国内のデフレ状況や企業の資金需要の弱さ、および、日本銀行の金融緩和姿勢の継続は金利を低位に安定させる要因になりそうです。また、需給面では、前述の通り、資金余剰の中、リスク回避姿勢が根強く、国内金融機関の債券需要は底堅く推移するものと考えられます。長期金利は当面、低位横ばい推移を見込みます。

【図表③】



【図表④】



出所: 図表①②は日銀、図表③はブルームバーグ、図表④は日本証券業協会のデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮していませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
<審査確認番号H22-TB130>